

に住む、事物は人を愛す、面して人は事物を愛したいと望んで居る、乃で人は事物の性質や本質を知らなければならぬ、又事物と事物との関係や事物と人との関係を知らなければならぬ。事物は形式(形式の教義)と壯大(壯大の教義)と多様(數の教義)とを持つて居る。外的世界といふ言葉によつて私はたい自然だけを意味してゐた。私は藝術的の産物及び人間の他の産物が私にとつて存在しない自然の中に大變長く住んで居た、それ故に初等教育の手段の中に人間の仕事の斯る結果を取込

行啓の日

むやうに私を教育するまでには長い間の努力を要したのである……、私が「外的世界」といふ言葉に人間の産物の全體を加へた時にそれは私の内的及び外的の水平線の一大擴張であつた……。その頃私は「すべてが渾一である、すべてが渾一から出發して行く、すべてが渾一を目掛けて努力し進んで行く、而して又渾一に歸つて行く。この渾一を成して努力し、渾一を求めて努力して行くのが人間生活に種々相を生せしめる所以である」と考へてゐた。

皇后陛下には十月二十三日午前九時御出門、東京女子高等師範學校へ行啓、その午後に於て、特に附屬幼稚園に臨御、幼兒保育の實況を御覽せられた。此の一篇は、その有り難き日の、たいあらましの覚えがきに過ぎぬ。

幼稚園の門の内の大銀杏樹には、秋の日が其の豊滿なる誇りを見せて居る。保育室の窓下に咲き

列ねた菊の花壇には、秋の日が其の高雅なる彩りを飾つて居る。本校の運動場から小學校の運動場を経て、春には紫の雲たなびく藤棚の下を、砂場に添ふて、幔幕嚴かなる幼稚園正面入口まで、箒目のあとも清らにしつらへたる盛砂の御歩道に

は、折から薄絹に包んだ玉の光りの様な、つゝましやかな日影がさして居る。今しも、遠く校庭から聞えて来る曲おもしろき奏樂の音よ。いつもに増して嬉々として輝ける幼児等の顔よ。若き保母達の心は己が呼吸をも自ら數へる様のおもひに緊張して居る。

心を籠め力を籠めて拭ひ清めた他には、何等平常と異なる際立ちたる裝飾などはしてない。遊戯室は、正面に白布につゝみて一段高くしつらへたる御座所の側を少し離れて、青銅の大花瓶に、菊の黄と梅もどきの紅とを、わざと其の道の人の手を煩はさず保母が誠心のみで活けてあるのが、せめてもの装ひと見ようか。例の富士と海上との二面の大額を始め、四邊の壁間に懸けてある馬、獅子等の動物畫、子供を描いた額、いづれも常のまゝに、ひたぶるに飾りなき恭敬の意を主とし居る。保育室には、これもつとめて飾らざる平生のまゝを、一切のわざとらしさを避けた處に、なかく

に苦心の用意が思はれる。たゞ各室ともに黒板畫には、さすがに今日を榮へと一段の心をこめてある。第一室の散り敷く紅葉の錦に二頭の鹿を配したる。第二室の千草亂れ咲く秋野に一もと菊の妍を誇れる。第三室の紅葉の大樹秋晴の天を占めて立てる。第四室の小菊咲く庭の日和に愛らしき女兒の遊べる。色チョークの色もとりに美しく。殊に此の日の傑作とすべきは、各保育室の模ボールドに描かれてある幼児の畫である。花電車、飛行機、軍艦、海上の日の出、菊と家、など、例の幼児が得意の畫題の中にわけてもおもしろきは、行啓の御行列を描きて、御馬車、先驅の騎兵等に着想と筆致の妙を極めて居ることである。

・此の日幼稚園にて、御覽の榮に浴したる幼児作業は、第一部二の組甲の遊戯(保母池田トヨ)、第一部第二部三の組の遊戯(保母奈良山梅)、第一部一の組の豆細工及び紙細工(保母大瀧晴)、第一部二の組乙の繋き方(保母杉本ふさ)、第二部一の組

の剪り方及書き方(研究科生小高ツヤ)、第二部二の組の積み方(保姆坂内ミツ)であつた。此の中遊戯は遊戯室にて、他はそれ／＼保育室にて、御機嫌いともうるはしく、畏れ多きばかり御懇ろに、御興味深く 御覽あらせられたる由に承はる。遊戯の『桃太郎』、『ねぐらの雀』、『飛行機の夢』は、その愛らしき合唱と動作とを、如何に可憐にみそなはせられたであらうか。各種の特技の、或は汽車に、或は旗に幼き趣向のさまざまを、如何におかしくみそなはせられたであらうか。又此の日校長より捧呈の品々の中には、幼児の製作品も亦含まれたりと聞く。それ等の品々をも、如何におかし

文展の子供の繪

今年の文展には子供の繪が甚だしい。殊に子供の繪の研究といふ意味から、記憶に残るような作

くみそなはせられたであらうか。思ひ見るども、實に畏しくも亦有り難きことである。殊に 陛下には御幼少の御砌り、一年ばかりを幼児として此の幼稚園に通はせられたる由に承はる。遊園其他にさまざまの遷りかはりこそあれ、建物は昔を其のまゝの位置をかへず。古き御思ひ出の數々を、御さそひまゐらせる。漏れ承はる處によれば、その頃の御思ひ出を偲び給ふ様の御言葉もありしかとさへ聞く。——御上のことは推しまゐらすも畏し。たゞ、光榮多き幼児達よ。此の光榮の日と母園とを永く忘るゝことなかれ。

倉 橋 生

は殆んど無いと言つてもよい。審査の標準が少し高くなつたか出品が比較的精選せられ、殊に俗惡